

工夫が凝らされている。今後もさらに、有用な測定の方法を模索する必要がある。

成績評価法については、現行のやり方でも目下のところ格別の問題は生じていないように思われるが、成績評価の透明性という要請にかんがみると、もう少し客観性の高い評価法を模索する必要がある。

(改善の具体的方策)

現状の問題性が教員間でことさらには意識されていないので、「改善」のための格別の具体的方策は目下のところ採られていないし、近い将来に採られる計画もない。教育・研究指導の効果を測定するための方法にせよ、成績評価法にせよ、現状のあり方でよいのかどうか、厳しい目で見直すところから始めなければならない。

4.2.3.5 教育の質の向上

【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）

- (必須要素) 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

<2003年度に設定した目標>

1. 共同指導体制の確立
2. 副指導教員制の充実

(現状の説明)

大学院での教育は、少人数教育となり、しかも各大学院学生の専攻分野の違いや研究内容に合わせた教育が必要となってくるため、一律な指導方法の確立という形はとりにくい。しかし、指導教員と大学院学生の1対1の指導にとどまらない、他の大学院教員も参加した共同での指導体制をとることにより、大学院学生の研究の促進ばかりでなく、担当教員の研究指導方法の改善という面からも、よい効果をあげることが期待される。そこで、各大学院学生の研究報告会を、大学院学生同士のみならず他の教員も参加した、公開での形で実施し、各大学院学生の発表をもとに、参加した教員および大学院学生による質疑、コメントをやり取りする機会を持つことによって、これらの成果を目指すこととした。2004年度から、まず公共政策プログラムにおいて、これを行なった。

共同での指導体制という観点から、さらに前期課程Eコースの大学院学生については、2004年度より副指導教員制度を導入している。同コースの大学院学生は、希望により、指導教員と相談のうえ、自己の研究内容にふさわしい副指導教員を1名指定する事が出来る。指定された副指導教員は、指導教員と連携を取りながら、当該大学院学生の指導にあたる。この制度は、各大学院学生の研究指導の充実にを図ることを目的とするが、複数の教

員で連絡を密にしながらか大学院学生の指導にあたる事によって、教員サイドにおいても、研究指導の改善促進につながるものとなる。

大学院の授業実施要綱については、大学院要覧に博士課程前期課程、後期課程に分けて記載、公表される。詳しいシラバスの作成、公表は現在のところなされてはいない。大学院学生による授業評価も、なされてはいない。

(点検・評価の結果)

目標1については、達成されつつある。目標2については、2004年度に2名の大学院学生が副指導教員の指導を受けており、良好に実施されつつある。授業内容をもう少し詳しく記したシラバス作成、および学生からの評価の実施については検討する必要がある。

(改善の具体的方策)

目標1については、2005年度は、公共政策プログラムのみならず、他の3プログラム、すなわち、法律実務プログラム、国際関係プログラム、自由研究プログラムにおいても、公開の研究報告会が9月および10月に実施される予定であり、この報告会は、着実に定着しつつある。目標2については、さらに充実を図るよう、大学院学生に働きかけていく必要がある。

シラバス作成については、大学院の場合、少人数教育となるため、当該授業を実際に受講する大学院学生の専攻分野および研究内容に合わせる必要性との関係で、事前にどの程度詳細なシラバス作成が可能となるかは、検討する必要がある。大学院学生による評価およびその活用についても、少人数授業であるため、学部の場合とは異なった考慮が必要となってこよう。これらの問題については、研究科委員会、および大学院問題検討委員会で検討していく。

4.2.3.6 学位授与・課程修了の認定

【評価項目 6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定

- (必須要素) 標準修業年限未満で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性

<2003年度に設定した目標>

1. 研究科委員会委員以外の者を、副査あるいは委嘱委員として論文審査に関与させ、論文の水準の維持、確保に努める。
2. 課程博士学位を得ることが博士課程後期課程の目的であることを明確に意識して大学院学生の研究指導にあたり、博士学位の授与数の増加に努める。